

企画経済委員会記録

○開催日時

平成28年2月8日 午前10時～午前10時31分

○開催場所

第3委員会室

○出席委員（6人）

委員長	川添公貴	委員	瀬尾和敬
副委員長	成川幸太郎	委員	杉藺道朗
委員	江口是彦	委員	小田原勇次郎

○その他の議員

議員	井上勝博	議員	下園政喜
議員	持原秀行	議員	森満晃

○説明のための出席者

新エネルギー対策監
兼新エネルギー対策課長 久保信治

○事務局職員

事務局長	田上正洋	管理調査グループ員	榎並淳司
議事調査課長	道場益男		

○審査事件等

審 査 事 件 等	所 管 課
陳情第31号 川内駅ゼロエミッション化（低炭素化）事業小型風力発電機の選定に関する陳情書	新エネルギー対策課

△開 会

○委員長（川添公貴）これより企画経済委員会を開きます。

本日の日程は、お手元に配付のとおり議事を進めたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（川添公貴）異議なしと認めます。よって、お手元に配付のとおり議事を進めたいと思います。

ここで、傍聴の申請が出ておりますが、許可したいと思いますので、よろしくお願いします。

△陳情第31号 川内駅ゼロエミステーション化（低炭素化）事業小型風力発電機の選定に関する陳情書

○委員長（川添公貴）それでは、陳情第31号を議題といたします。

本陳情については、事前にお手元に配付してございましたので、朗読は省略させていただきたいと思います。（巻末に陳情文書表を添付）

これより、当局に補足説明等ありましたらお願いしたいと思いますが、その後、質疑応答、そして自由討議としていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○新エネルギー対策監兼新エネルギー対策課長（久保信治）おはようございます。それでは、企画経済委員会資料と参考資料を合わせて御説明したいと思います。

○委員長（川添公貴）ちょっと待って、資料をまだ配ってないんで。説明資料をつくってございますんで、ただいま配付しますんで。しばしお待ちください。

○新エネルギー対策監兼新エネルギー対策課長（久保信治）失礼しました。

〔資料配布〕

○委員長（川添公貴）じゃあ、お願いします。

○新エネルギー対策監兼新エネルギー対策課長（久保信治）それでは、説明資料に基づきまして、2枚の資料、企画経済委員会資料、それから参考資料について御説明いたします。

まず最初に、企画経済委員会資料のほうでございまして、川内駅次世代エネルギー導入事業について、経緯でございまして、平成26年3月です。約2年前でございまして、当初予算で承認を得ております。

これにつきましては、前年度に調査いたしました国土交通省の補助率2分の1を想定しまして予算化しておりますのでございます。

その後、非常に補助率の高いグリーンニューディール基金というものがございましたので、調査を進めながら、そちらに要望を進めておりまして、平成26年11月、鹿児島県からの補助金の内示がございましたので、同年12月に第5回補正により、補正の内容につきましては歳入と歳出と繰り越しの設定をしておりますのでございます。

その後、同年の12月26日に、鹿児島県より補助金の交付決定を受けております。

翌年の平成27年2月には、発注方針の決定、公募をしまして――平成27年の2月6日において、発注方針の決定をしまして公募を――かけております。

公募の期間は、平成27年2月6日から3月の9日までとしております。平成27年3月には、事業者を決定し、三菱電機九州支社と契約をしております。

ここで、星印に戻っていただきまして、事業者のこの発注方式の公募につきましては、事業者の実績、課題に対する企画提案、事業の体制などを示していただくものでありまして、設計案を競うコンペとは違います。

ですから、期間においては、こちらの公募期間で設定しておりますのでございます。

その後、事業者が決定し、調査、関係機関との調整――これはJR、それから道路管理者、公園管理者との調整。それから詳細設計、許認可機関への申請、許可を経まして、平成27年、約9月かかりました12月に施工を開始しております。

その設置位置、事業につきましては、別紙の参考資料をごらんください。2枚ほどございますけれども、事業概要につきましてはお見受けのとおりでございまして、3の導入設備でございまして、太陽光発電システム、出力30キロワット、風力発電システム5キロワット、リチウム蓄電池システム33.7キロワットアワー、それからエネルギーマネジメントシステム、LED照明、これにデザインについて公募して、今、設置をしているところでございます。

場所につきましては、川内駅、この図がございまして、バスの待合所の後ろに蓄電池、それから時間貸し駐車場のところを屋根つき駐車場に

しまして太陽光設備、それから、薩摩タクシーがあります、ちょっと対面のところに川内駅という石板がございますが、その後ろに風力発電をつけるということで考えております。

それから、エネルギーマネジメントシステムは、東西自由通路、それから、LEDについても東西自由通路を含めた形のコントロールシステムということになります。

陳情のございました風力発電につきましては、2ページ、3ページの風レンズ風車——これは5キロワットでございますけれども。これを設置するということで、これは、三菱電機株式会社九州支社のほうから、このレンズ風車を取りつけないということで承認願が来まして、私どもは、それについて承認してるというものでございます。

それでは、資料のほうにまた戻っていただきまして、資料のほうの裏面のほうの括弧書きのところでございます。

小型風力発電の安全性についてということでございますが、今回、設置の小型風力発電設備は、受注者である三菱電機株式会社九州支社により、当社が提示した——これは公募で提示しました5キロワット、カットイン3メートルという仕様を満たす中から、ウィンドレンズ、これは福岡県の風レンズ風車を選定されたと。——これを当課が承諾したものでございます。

風レンズ風車の初期モデルにつきましては、これまで、ブレード、羽根の部分の破損の事故などの発生した経緯がございますが、その後、改良が加えられていることを三菱電機から説明を受けております。また、本課においても、直接、導入実績のある自治体、それから企業を訪問し確認をしているところでございます。

なお、この導入する同タイプのものを、民間事業者の、訪問したところ、順調に稼働しております。昨年、大きな台風・台風15号が直撃した際にも問題なく停止し、破損はしていないという報告を受けております。

このことを踏まえ、予定どおり風レンズ風車を1月の21日に設置いたしました。

以上で報告を終わります。

○委員長（川添公貴） ありがとうございます。

ただいま、陳情に対しての補足の説明をいただきました。皆さん方のほうで御質疑等がございましたら、よろしくお願いします。

○委員（江口是彦） 次世代エネルギー対策調査特別委員会でも、一応の——今、説明を受けたようなこと——説明いただいたところであります。

それで、これは、風車は、1月21日に既にもう設置済みだということですが、陳情にある設置事例が40台、そのうちの9台が事故等で現在もストップしているというような。このウィンドレンズ製の風車のリスクっていうか、が訴えられているわけですが。調査っていうか、もう一度この辺の全国的な設置事例等を踏まえて、調査をされていると思われまので、再度お知らせいただければと思います。

○新エネルギー対策監兼新エネルギー対策課長（久保信治） それらの、これまでの事故実績、それからその後の対策について、原因も含めて福岡市、それから新潟市、北九州市、そういったところに調査しております。

事故については、まずブレーキが電気式でかからないということが原因であるという特定となっております。今回、改良型においては、電源が喪失した後も必ずブレーキがかかるという——電源が喪失してもブレーキがかかるという、ふうな安全な方式に変えており、そのセカンドタイプというか2番目のタイプにつきましては、ひびきのLNG基地であったり、老人福祉センター、老人ホーム、そういったところにも、建物の近くにも設置してございまして、1年たって、台風が直撃しても安全側にとまり、稼働しているというふうな結果を、結論を得ております。これらについても三菱電機からも同様の報告を受けたものを、私どもも行って確認したところでございます。

以上でございます。

○委員（江口是彦） 私は素人ですから、機械の、メカのことについてはわかりませんが。いろいろ事故は起きたくても、それが、例えば新潟市とか福岡市、北九州市等においても、原因究明っていうか、改良をされて稼働しているっていうふうに捉えていいんでしょうか。

ですから、1月21日に設置された本製品については、さきに事故を起こしたようなものとは違うっていうか、改良をされていると。今の電源喪失の場合でも、ブレーキがちゃんとかかるように改良されていると説明されましたが、そういうふうに理解してよろしいんでしょうか。

○新エネルギー対策監兼新エネルギー対策課

長（久保信治）はい。委員御指摘のとおり、今回の改良型につきましては、ブレーキの部分、それから雷でとまって壊れたとか、そういった部分が解消されておりまして、それも、その後に設置されたものが1年以上動いて、とまっていないということを確認した製品を取りつけているということで説明を受けており、私どもも確認に行きました。

以上でございます。

○委員長（川添公貴）ほか、ございませんか。

○委員（成川幸太郎）この陳情に書いてあります2013年7月13日導入で、8月31日にプロペラ2枚が破損しているというふうに書いてあるんです。

今の改良型というのは、いつから販売されているものなんですか。

○新エネルギー対策監兼新エネルギー対策課長（久保信治）この事故後に、ブレーキについての改良をされたもので発売されているというふうに確認しております。

新潟市の事故につきましては、雷が非常に多い箇所、北陸の場合は雷が非常に多い場所でありまして、そこで落雷により、電源が喪失。ブレーキのところが壊れていたのにもかかわらず、職員が稼働をかけた。ブレーキが壊れている、そういった電源が喪失しているのを確認せずにスイッチを入れたという事故でございまして。その後、新潟市につきましては、安全側に自分でとめていると。非常に風が強い場所であるということでございます。

そういったことで、その後は、電源が喪失したら完全に止まるというふうなシステムに改良しているものでございます。

○委員長（川添公貴）いつから……。

○新エネルギー対策監兼新エネルギー対策課長（久保信治）2013年7月導入、8月以降に改良したものであるというふうに聞いております。

○委員（成川幸太郎）その後、導入されたところは、この薩摩川内市以外でもあるわけですね。その後の導入のところは、そういった事故は起こっていないということで確認していいんですか。

○新エネルギー対策監兼新エネルギー対策課長（久保信治）その後導入したところは、北九州市のひびきLNG基地、これは、LNGの基地でございますので、もし破損して、物が飛んでい

くと大変であるということでございますので、そういったところにも設置してございますし、社会福祉法人の老人ホーム3カ所についても、その後つけられたものでございますけれども、その後、ふぐあい、羽根が飛んでいるといったような状況はないというふうに確認はしております。

○委員（成川幸太郎）じゃあ、改良型は設置後2年間は、そういった、当初起こったような故障というのは起こっていないということでもいいわけですね。

〔対策監うなづく〕

○委員（杉藺道朗）この事故事象で、羽根が、プロペラが破損したということもあるわけですが、ブレーキ故障、想定外の回転により羽根の破損というふうにも考えられますが。新しい改良型においては、材質そのものが変更になった部分があるのか。例えば、木製がグラスファイバー製という強化プラスチック、さまざまあるんだろうなと思うんですけども。

事前の事故型の、機種のプロペラの材質部分と、新しい改良型、ブレーキ不良による部分による破損ちゅうのも言われましたけれども、そこあたり、材質的に勝っている部分があるのかおわかりであればお示しいただきたいと思います。

○新エネルギー対策監兼新エネルギー対策課長（久保信治）当初、開発した当時の、福岡市に設置したこのウィンドレンズの場合は、羽根が木製であったり、ブレードのところは木製になっていて破損しやすいというふうなことで改良を加えられておりまして、今はグラスファイバーに変更になっております。

以上です。

○委員（杉藺道朗）もう1点だけ。ちょっと、この三菱電機が施工というか、なっているんですけども。この株式会社ウィンドレンズ社とは、周りに子会社的な、協力会社的なというそういう位置づけではない、全く別個の会社であるというふうに理解してよろしいでしょうか。

○新エネルギー対策監兼新エネルギー対策課長（久保信治）三菱電機さんの子会社という形では、全然ございません。

○委員（杉藺道朗）はい、わかりました。

○委員長（川添公貴）ほか、ございませんか。

○委員（瀬尾和敬）この陳情書を受理したのが平成27年12月17日です。もう既に、入札も

終わり契約も済んでやってきたわけですが。このウィンドレンズ製の小型風力発電導入をやめてという、ここにちょっとひっかかっているんですけど。もう既にどんどん進んできているものをやめるということは、その入札の結果、そのものをもなしにしろという、そのように捉えていいんですかね。私、ここがちょっとひっかかるもんですから。

今回はしょうがないにしても、その次から、絶対、こういういわくのあるところの応札は受け付けるなどという陳情ならある意味わかるんですが、もう既に入札も終わり、事が進んでいって、おまけにもう完成している中で、この陳情書を審議するということが、少し、私は、ちょっとピンとずれているような気がするんですけど、どんなもんですか。対策監、何かお考えないですか。

○委員長（川添公貴） 制度については、今、瀬尾委員のほうで話があったんですが、適正に入札をし、適正に対応して施工したのかどうかについてお答え願います。

○新エネルギー対策監兼新エネルギー対策課長（久保信治） 先ほどの資料のほうで御説明したとおり、まず、当初予算承認のときから、2年前の3月というときから、こういった太陽光システム、蓄電池システム、風力、小型風力といったものも取りつけるというふうな予算を要求して上げてございまして、それらについては、全て公表されているというふうに考えております。

その後、私どもは、いろんなところから営業というんですか、こういったものはどうですかというものは受けてはありましたけれども。これは公募をかけますということで、公募をこの2月に、次の年の2月にかけて進めており。その後、受注された後、この9カ月の間にいろんなものを調査、その三菱電機さんのほうで調査設計、関係者協議をされる中で、これを使いたいということで出てきたものでございまして。私どもが、そこに出したのは要求水準でございまして、こういったものを取りつけて支障がないように、個人、民間の方、それから、そこを駅利用者が非常に多いので、そういった方々に支障がない工事の進め方をしてくださいというような形で発注して受注されたものでありまして、これらの中身については、適正に、我々、承認していったというふうな経緯

でございます。

○委員（瀬尾和敬） 入札のあり方そのものについて、我々がどうのこうのというのは、ちょっと口はばつたいところがあるわけで。この陳情そのものは、これは尊重するとすれば、そのようないわくのある業者を何でさせたのかということにとどめたいなというふうに私は思っています。

また、既に完成しているわけであって、我々も、その議会議決を踏まえて、ここまで来ているわけで。これを、じゃあやめてという表現がありますけれども、この陳情に関して言えば、もう、これ、少し時期を逸した陳情書じゃないのかなという気がします。

あと、もう入札の制度に関して、我々が言及することは、ちょっとできないのではないかなと。ただ、今、聞いた段階で適正であったということであれば、今後、当局としてのあり方は、この事故が起こることがないように、しっかりと適正な管理をするということに尽きるじゃないかなという気がします。

以上です。

○委員長（川添公貴） 御意見でした。

ほか、ございませんか。

○委員（成川幸太郎） この2月6日から3月9日まで、プロポーザル公募型のプロポーザル方式でされたわけですが、何件ぐらいの応募があったわけですか。

○新エネルギー対策監兼新エネルギー対策課長（久保信治） これについては、問い合わせにつきましては数件ございましたけれども、応募につきましては1社でした。

○委員長（川添公貴） いいですか。

○委員（瀬尾和敬） はい。

○委員長（川添公貴） ほか、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（川添公貴） これより自由討議を行いたいと思いますが、自由討議はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（川添公貴） 質疑、自由討議は尽きたと認めます。

これより、委員外議員の質疑を許します。

○議員（井上勝博） ウィンドレンズにしたのが、平成27年の3月ということで、ここで決定しているという認識なんですけれども、陳情者が、この機種については危ないよというふうにな

ルギー課に行かれたのはいつだったのか。

そして、その時点で、新エネルギー対策課のほうは、そういう事故があったことを承知していたのか。陳情者から言われて初めて知ったのか。その辺が確認したいところなんです。

それから、福岡市でプロペラが破損して、1年経過しても修理されておらず稼働していないと。すぐ改良されているわけですね、その新潟市の場合。しかし、その破損したのが稼働していないって、こう陳情者が言っているんですが、これは事実であるとしたら、なぜ1年間も経過しても修理しないんだろうかという疑問が残るんですが、その辺の疑問にお答え願います。

○新エネルギー対策監兼新エネルギー対策課長（久保信治） 井上議員の2点の質問についてお答えします。

1点目です。平成27年3月に特定したのは、三菱電機株式会社にて特定して契約をしております。

その後、三菱電機株式会社のほうが、駅を調査し、それから関係機関と協議を重ねながら、このウィンドレンズについても、全国、それから世界のあらゆる小型風力を比較検討して、その後、このウィンドレンズ社を使いたいという申請を上げてきたのが10月、9月ぐらいのころだったというふうに記憶しております。

その後、この陳情者のほうからは、このものについては危ないという話を聞いておりまして、私どものほうも、こういった危険なものであるかどうかについては確認をしております、先ほど言いました新潟市の事故の例、それから福岡市がなぜとまっているか、その後の、私どもがつけるものがどういったものであって、今、ちゃんと動いているかどうかというものを確認し、承認したところでございます。

それから、福岡市が1年間もの間、どうして何もやらなかったかということでございますが、福岡市につきましては、実証実験という位置づけをしております、公園のところであったり、いろんなところを借りて設置されていらっしゃったということで、市議会に、平成27年の12月議会の中で、いろいろ、その前の委員会の中でも、事故、この実証についての、こういったことで事故が起こったかと、今後どういうふうな形でつくっていくべきかということを協議をなされ、電源が失われたということでブレーキがきかなくなった

ということでございますので、こういったことは、一定の実証の結論を得たということで、福岡市につきましては全て撤去すると、また、再度新たに設置していくという方針をしているというふうに聞いております。

以上でございます。

○議員（井上勝博） やっぱり、先ほどの新潟市の場合は改良型がすぐできているということなんですが、やっぱり1年間も経過して、これは議会が、こんなおかしいんじゃないかということで、議会が承認しないから新しくつくられていないのかなって思うんですが。1年間ってというのは、やっぱりちょっと長いような気がいたしますが、その辺は、壊れた状態のままでずっと放置しておく、それをやっぱり補償しないというか、きちんとしないってというのは、ちょっと問題ではないかと思うんですね。

それから、やっぱりウィンドレンズに決めた時点では、まだ、これが事故が多いものということについての認識がなかったというふうに受け取れたんですけども、やっぱり40台のうちの9台が事故ストップしてるということであれば、これは、ちょっとやっぱり決めた後も、すぐ見直し、検討というのはあってよかったんじゃないのかなというふうに思うんですが、そこら辺どうでしょうか。

○委員長（川添公貴） 対策監、他市が1年放置したってということについて疑問だということなんで、それについては、先ほど調査をしたということでもありますので回答は要りません。あとの部分について回答をお願いします。他自治体の件ですので、言及する権限はございません。

○新エネルギー対策監兼新エネルギー対策課長（久保信治） その後、私どものほうに調査をして、比較検討書を私どもはまた三菱電機さんのほう、元請さんのほうに、これは安全がどうか、それからほかのものと比べてどうなのかということを確認をさせていただきまして、その40件中9件とまった実績、その故障事例、それから新潟市の故障事例、そういったものを踏まえて、今、新しいものはどうなのかというものを確認をして承認をしたということで経緯はつながっております。

私どもは、その後、これは安全だというふうに確認した上で、今後も安全に動かしていくことが

必要であるということを受注者等にも確認をしながら、今、設置をしているというところでございます。

○委員長（川添公貴）ほか、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（川添公貴）委員外議員の質疑が終了いたしました。

これより、陳情第31号川内駅ゼロエミッション化（低炭素化）事業小型風力発電機の選定に関する陳情書の取り扱いについてお諮りいたします。

どのようにいたしましょうか。

〔「採決」と呼ぶ者あり〕

○委員長（川添公貴）採決の声がありますが、採決の方向でよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（川添公貴）御異議なしと認めます。これより討論、採決を行ないます。

討論はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（川添公貴）討論はないものと認めます。

これより採決いたします。本案を可とするものの起立を求めます。

〔起立なし〕

○委員長（川添公貴）起立なしと認めます。よって、本陳情は不採択とすることに決定いたしました。

△閉 会

○委員長（川添公貴）以上で、本日の日程の全てを終了いたします。御苦労さまでございました。

【卷末資料】

陳情文書表

受 理 番 号	陳情第 3 1 号	受理年月日	平成 2 7 年 1 2 月 1 7 日
件 名	川内駅ゼロエミッション化（低炭素化）事業小型風力発電機の選定に関する陳情書		
陳 情 者	薩摩川内市勝目町 5 8 7 6 番地 富永 重己		
要 旨			
現在、川内駅正面側に、L E D、太陽光、小型風力発電機を導入する事業が発注されている。そこで、小型風力発電機の選定であるが、現在進められている風力発電機は、ウインドレンズ製である。 この製品は、設置事例が約 4 0 台、そのうち 9 台が事故事例で現在もストップした状態であり、うち新潟市では、2 0 1 3 年 7 月 1 3 日導入で、同年 8 月 3 1 日にプロペラ 2 枚が破損している。導入して 1 か月あまりで、破損した状態である。 福岡市で 3 機導入のウインドレンズ製のものも、プロペラ破損後 1 年経過しても修理されておらず、稼働していない。 このように、事故事例がある中、なぜ、ウインドレンズ製をリスクを抱えながら導入するのか分からない。何回も、新エネルギー対策課に説明している。 メーカー側が大丈夫と口で言われるだけで、何の保証もない。是非とも、ウインドレンズ製導入を止めていただきたい。 ついては、下記のとおり陳情する。 記 ウインドレンズ製の小型風力発電機導入を止めて、市民の安心安全を守っていただきたい。 安心と言われるなら、根拠を示していただきたい。			

薩摩川内市議会委員会条例第30条第1項の規定により、ここに署名する。

薩摩川内市議会企画経済委員会

委員長 川 添 公 貴